

<対策のポイント>

酪農家や肉用牛農家の労働負担軽減・省力化に資するロボット・AI・IoT等の先端技術の導入や、畜産農家に高度かつ総合的な経営アドバイスを提供するためのビッグデータ構築を支援します。

<政策目標> [乳用牛産子：平成30年→平成36年まで、肉用牛産子：平成29年→平成36年まで]

子畜の出生頭数の増加（乳用牛産子：72.0万頭/年→74.4万頭/年、肉用牛産子：51.7万頭/年→54.7万頭/年）

<事業の内容>

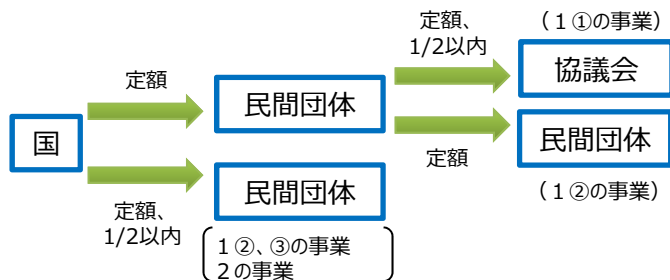
1. 畜産経営体の生産性向上対策

- 畜産農家の省力化・生産性向上を図るため、以下の取組を支援します。
- ① 搾乳ロボット・発情発見装置等のICT関連機械の導入
- ② 畜産農家のICT化に向けた調査
- ③ IoT機械装置の規格にあった家畜生産等の推進

2. 全国データベース構築

- 生産関連情報を一元的に集約する全国データベースの構築及びデータベースに基づき高度な経営アドバイスを提供する体制の構築等を支援します。

<事業の流れ>



<事業イメージ>

1. 畜産経営体の生産性向上対策

① 省力化・生産性向上につながる機械装置（各種データ取得が可能）の導入を支援（搾乳ロボット・発情発見装置等）

発情発見
(人工授精)

分娩監視

飼養管理(搾乳、給餌等)



② データ取得機械に関する調査
・新型機械の調査、具体的効果の測定等



③ 機械装置不適合家畜に関する調査

・乳頭がセンサーに認識されない家畜の調査等
(乳頭交差)



2. 全国データベース構築

